

レフェリーレポート

平成31年2月25日

萩原佳明

1 参加研修会

2019年度 九州ハンドボール研修会(兼 2020年鹿児島国体に向けた、TD 等役員研修会)

日時:平成31年 2月23日(土)~2月24日(日)

会場:2月23日(土)霧島市国分公民館

2月24日(日)ソニーセミコンダクタマニファクチュアリング(株)鹿児島 TEC 体育館

2 研修会での確認事項

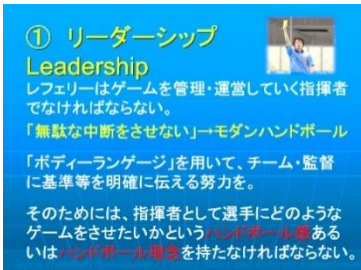
2/23(土)

- ・審判員の心得 10 か条
- ・オープンブックテスト
- ・平成31年(2019)年度 審判員の目標
- ・上級審判員の審査視点
- ・TD、マッチオフィシャルの任務 事例研究
- ・審判員としての所作、観察のポイント

この6つの項目について日本ハンドボール協会審判委員長 福島亮一氏から講義を受けました。

・まずは、「審判員の心得 10 か条」について

1 リーダーシップ



① リーダーシップ
Leadership
レフェリーはゲームを管理・運営していく指揮者でなければならない。
「無駄な中断をさせない」→モダンハンドボール
「ボディランゲージ」を用いて、チーム・監督に基準等を明確に伝える努力を。
そのためには、指揮者として選手にどのようなゲームをさせたいかという「ハンドボール感」あるいは「ハンドボール観念」を持たなければならない。

「レフェリーはゲームを管理・運営していく指揮者でなければならない。

無駄な中断をしない→モダンハンドボール

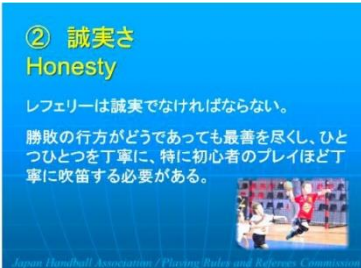
ボディランゲージを用いて、チーム・監督に基準等を明確に伝える努力を

そのためには、指揮者として選手にどのようなゲームをさせたいかという

ハンドボール感あるいは、ハンドボール理念を持たなければならない。」

とのことでした。

2 誠実さ



② 誠実さ
Honesty
レフェリーは誠実でなければならない。
勝敗の行方がどうであっても最善を尽くし、ひとつひとつ丁寧な、特に初心者プレイヤーのプレイほど丁寧に吹笛する必要がある。

「誠実さすなわち、素直でなければならない。というのは、試合中に両チームが

いろいろとジャッジに対しリクエスト(質問)をしてくる可能性がある。

それを聞き受け入れる考え方が大事、またプレイヤーが審判に対して「今のプレーは」

と質問してきたときに、誠実に答えるべきであり、特にカテゴリーが下がるにあたって

丁寧に口頭で説明ができるようにする努力が大事である」とのことでした。

3 ルールに関する知識



③ ルールに関する知識
Knowledge of the Rule
ルールを熟知していること、さらにその根拠にある意図・思想を理解する。
反則された者が不利に、反則した者が有利になってはならない。

「リーダーシップ・誠実さがあってその後に、ルールに関する知識が必要。単にルールの枠にはめ込もうとすると必ずいろいろな問題が起きてくる。

また、選手がルールを理解していなかったら教えてあげる姿勢も必要になってくる。」とのことでした。

4 冷静さ

④ 冷静さ
Firmness

感情的になるな！
レフェリーは瞬間、瞬間に適切な判断をしなければならない。
そのためには、自分の信念で堂々と判定しなければならない。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

「感情的になってレフリングをしない。ベンチから感情むき出しにリクエストをされた時一緒に頑張って応戦するのではなく冷静に対処する。また、ベンチとのやり取りが客観的に、どう思われるかを考える必要がある」とのことでした。

5 正しい判断

⑤ 正しい判断
Good judgment

よく観察し、はっきり確認したものだけを、判定する。
決して予測で吹笛してはならない。
アドバンテージルールがあるので、見えた全てを判定するのではなく、プレイが発展するかどうかを見極めなければならない。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

「誰が見てもはっきりとしたジャッジを下す。自分が吹いた笛に対し選手がどう反応したか、また余計な笛を吹かない。選手は1点を取るため・取られないようにプレーをしているため、レフェリーが独りよがりになりレフリングをしてしまうとゲームが止まってしまうことがあるので、はっきり確認したものだけ判定する」とのことでした。

6 身体上の適正

⑥ 身体上の適正
Good fitness

素晴らしい笛(タイミング、判定基準)、良い位置に素早く移動して、適切に判定することから生まれる。
「We must run, too」とIHFレフェリーも言っている。




Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

「ゲーム展開がよりスピーディーになりレフェリーも1試合とおして対応していかないといけない。また以前より体力測定がシャトルランだったが、スピード・位置取りを考えたときに、シャトルラン以外の別のトレーニングが新たな測定に入ってくる」とのことでした。

7 ユーモアのセンス

⑦ ユーモアのセンス
Sense of humor

ユーモアはなくて困るものではないが、もしも、選手を罰するとき微笑を持ったなら、あなたの温かい心が相手に伝わるはずである。




Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

「日本のレフェリーが国際試合に行くとき一番足りないところである、簡潔にいうと心の余裕が必要」とのことでした。

8 勇気

⑧ 勇気
Courage

監督・選手が恩師や先輩であっても、ルールはルール。
たとえ罰則であっても勇気を持って公平に判定しなければならない。




Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

「国内のゲームではいろいろな環境でレフェリーをすることになる例えば監督・選手が恩師や先輩であってもルールはルール。たとえ罰則であっても勇気をもって公平に判定しなければならない。」とのことでした。

9 協調性

⑨ 協調性
Cooperation

競技場には二人のレフェリーペアがいることを、常に意識しなければならない。
また二人しかいないことも忘れてはならない。
そのため、二人で力を合わせ、協調しながらゲームを運営しなければならない。
チーム・競技役員・補助役員との連携を！



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

「競技場には二人のレフェリーペアがいることを、常に意識しなければならない。また、二人しかいないことも忘れてはならない。そのため二人で力を合わせ、協調しながらゲームを運営していかなければならない。そして、チーム・競技役員・補助役員との連携も大事、オフィシャル役員のミスは自分たちのミスだと思って対応をしていかなければならない」とのことでした。

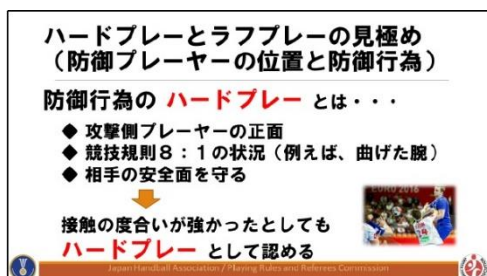
10 仲間意識



「協調性とほぼ同じであるが、お互いを褒め称えることも忘れずに」
とのことでした。

・平成31年(2019)年度 審判員の目標について

2019年度の審判員の目標は、大きく分けて2つです。1つは、「審判員の心得 10箇条」です。もう1つが「コンタクトプレーを正しく見極める」ことでした。



例えばハードプレーとラフプレーの見極め(防御プレーヤーの位置と防御行為)そして、ここでは、競技規則8:1に記載されている「許される行為」を踏まえ、ハードプレーを次のように定義していました。
防御行為におけるハードプレーとは、防御側プレーヤーが
→ 攻撃側プレーヤーの正面に位置を取っていること。

例えば、曲げた腕を使うといった→ 競技規則8:1の状況であること。

その上で、例えばジャンプしている相手に対しても→ 相手の安全面を守ることを前提とした防御行為、ボディーコンタクトが保障されこの状況の中例えばプレーヤー同士の接触の度合いが強かったとしても、レフリーは、これを「ハードプレー」として認めていこう。ただし、カテゴリーによっては影響が出てくるのでそこも課題になってくることでした。

・上級審判員の審査視点について

審判員の立ち振る舞いで試合の良し悪しが決まってくることでした。例えば、試合前のコイントスは指定された時間両レフリー、TDが立ち会うまで待つ。もしないのであれば、自分で呼びに行くぐらいの行動力が必要。試合前、両チームのアップ中に選手の装飾品(靴下やアーマー)を確認しているか、試合中以外のことにどれだけ注意しているかが大事であることでした。また、全国大会でも、警告・退場・7mスローを判定した時に何の違反なのか、ジェスチャーをしていないのが多かった。必ずその判定の理由は何かを皆に分かるように大きく1回ジェスチャーをしないとイケないことでした。

・審判員としての所作、観察のポイント

鹿児島県内のそれぞれのカテゴリーのチーム(高校生・大学生・社会人)が10分間のゲームを6試合行いました。その試合の担当は、今度上級審査を受ける方が担当し(5分程度)、そのレフリングを上級のレフリーから評価してもらうことになりました。その時のアドバイスとしては、状況を言いながらレフリングをする。例えば、「高速・横から・背後から」と言ったキーワード言い続けながらレフリングをすると、とっさに反応ができジャッジのミスが減ることやコートレフリーからゴールレフリーへの走路・帰陣のこと、位置取りのことなど上級審査を受けるにあたっての必要なレフリングを教授していただき、貴重な経験ができ今後の課題にもなりました。

3 終わりに

今研修会において、ハンドボールのゲーム自体がよりスピーディーさを求めていると感じました。それに対応していくには、レフリングの上達はもちろんですが、試合の環境管理の重要性や大会参加にあたっての心構え。また、選手・監督・オフィシャル・観客・レフリー皆で試合を作っていく姿勢も今回大変勉強になりました。最後に、福島審判長をはじめ鹿児島県ハンドボール協会の方々への今研修会に向けて準備をしてこられたことに感謝申し上げます。